

第1回「^{あす}明日の仙台塩釜港を考える懇談会」の概要

<懇談会の趣旨>

仙台塩釜港を取り巻く様々な情勢の変化を踏まえた、今後の仙台塩釜港のあり方等について、学識経験者や港湾関係者等から知見・意見を頂く場として、「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」を以下のとおり開催しました。

<概要>

- ・日時：令和4年5月25日（水）午後3時から午後5時まで
- ・場所：みやぎ産業交流センター（夢メッセみやぎ）西館大会議室
※対面とweb参加の併用開催
- ・出席者：学識経験者，経済団体，港湾関係者，国・関係市町（全30名）
- ・内容：港湾を取り巻く社会情勢等について

<主な意見>

- 全体
 1. 仙台ー京浜間の陸送貨物のモーダルシフトがポイント。物流センターの立地などロジスティクス（物流）の強化や効率化に向けた検討も重要。
 2. 港湾BCPについて、宮城県だけではなく「他地域の応援」という視点も必要。
 3. 仙台塩釜港への集荷の取り組みを強化することで、輸送の効率化、サービスの充実を図る必要がある。
 4. 船舶の大型化が進んでいる。集荷に向けた努力と労働者確保が必要。
 5. 航路・泊地の浚渫が必要である。
 6. 地球温暖化防止に貢献するため、カーボンニュートラルレポート形成に向けた取り組みが必要である。

（開催状況）



<主な意見（港区別）>

● 仙台港区

1. 釜山港のハブ機能（釜山トランシップ）を，国内主要港（京浜・阪神・名古屋）へ転換させるため，国際フィーダー航路（国内二次輸送）の必要性が高まっている。
2. さつまいも，キャベツなど農産品の輸出需要が高まっている。
3. 船舶航行安全確保のため，ポータルラジオを導入してほしい。
4. 船舶の大型化が進み，岸壁延長が不足するケースが出てきている（貨物の保管・荷捌きスペースも不足）。
5. 航路外の航行や油流出による漁業への影響を懸念。港湾整備の際には環境影響調査をしっかりと行ってほしい。

● 塩釜港区

1. 港湾における取扱貨物量の減少が地域の疲弊の一要因と考えられる。ポテンシャルはあるので港湾機能の再活用を図り，地域経済の再生に繋げるべき。
2. 観光船事業の活性化に向け、港湾行政の立場からも対策を考えていくべき。
3. 港奥部一帯（マリンゲート～北浜、埋め立てずに残した海面）が地元の経済再生に繋がるよう、観光の視点からの活用を図るべき。
4. 東日本大震災に際し，防災上，浮き桟橋は係留していた船舶の漂流を防ぎ，津波に対し有効だった。今後に向け研究、普及が必要。

● 石巻港区

1. 訪日客による日本発着の国内クルーズ需要（フライ&クルーズ）が高まっており，石巻港区の活用を期待している船社がある。
2. 防波堤整備を行っており静穏度が確保できるのか疑問。
3. 高速道路が整備され，当港の背後圏が拡大し、隣県（釜石・大船渡）との競争が必要となる。
4. 船舶の大型化が進んでおり，大水深岸壁（-14m）の早期整備が重要となっている。

● 松島港区

1. 今の現港湾計画では，「日本三景松島を核とした観光拠点」と記載されているので，関連する施設整備・観光振興策などについても，予算，力を入れてほしい。
2. 大型クルーザー船などの受け入れ等についても検討願いたい。
3. 自然災害に強く，安全な港として検討願いたい。